議員定数を２人減へ 条例改正案を提出！

津山市議会の議員定数については、前回の3月定例会で議会活性化調査特別委員会より、「議員定数28人は現状維持」との中間報告がありました。

しかし、今回の定例会最終日（6月26日）に、議員定数を「2人減」とし、26人とする議員定数条例の改正案が、政岡哲弘議員、中島完一議員、小椋多議員の3名から提出されました。

本会議において採決を行い、賛成少数でこの改正案は否決されました。

提案理由

3月定例会の中間報告は、各会派などの代表者により協議されたものであるが、本来、議員定数の見直しは、議員一人ひとりがこの本会議の場で意思表示をするべきである。

そして、連合町内会からは議員定数の削減を求める要望書が複数回提出され、市民の定数削減に対する要望は極めて強いと感じる。

また、急激な人口減少が続き、近い将来10万人を割り込むことが予想される津山市の状況を考えれば、一定の削減は必要不可欠と考える。

反対討論

美見みち子 議員

議会活性化調査特別委員会の中間報告では、議員定数は現状維持であり、それを求める市民の声も議会に届いている。また、女性の議会進出を阻むことにもなるため、改正案に反対する。

津本憲一 議員

議会の議決により設置された議会活性化調査特別委員会が各会派の意見を集約し、定数を現状維持するという結論を出している。改正案は、この結論を軽視したものであり、反対する。

賛成討論

中島完一 議員

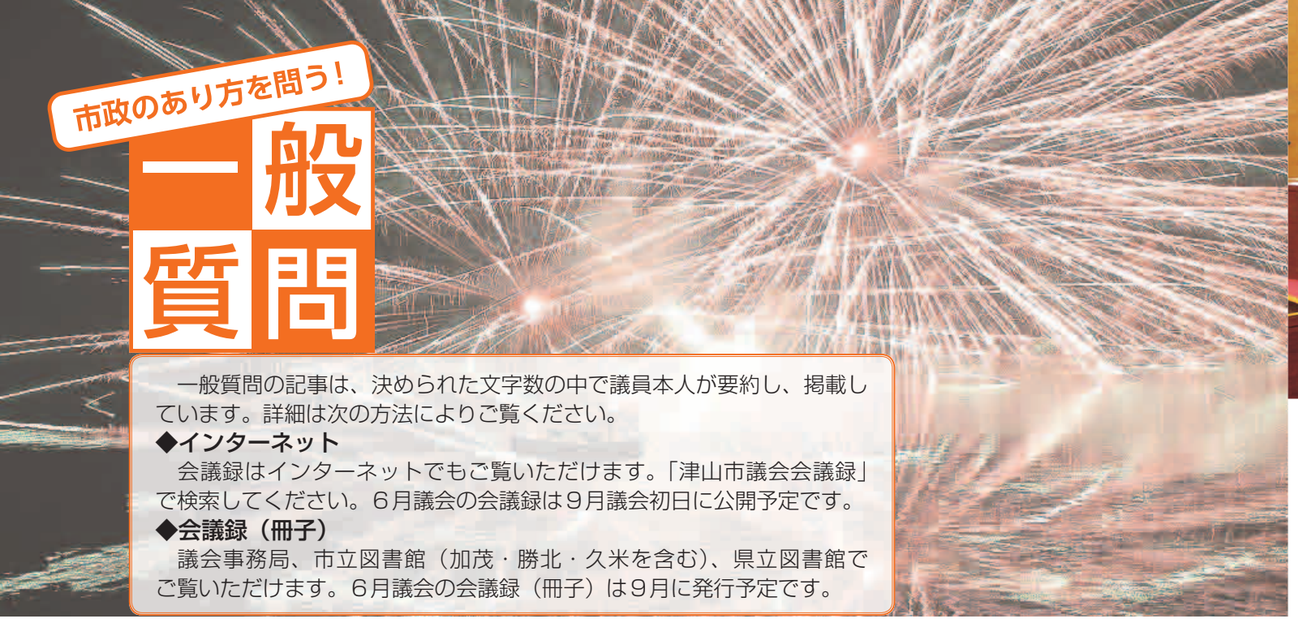
市民の声を聞くことは議員の責務であり、議員定数は津山市の面積ではなく、人口規模により定めるべきである。よって、人口減少社会の到来という状況から、段階的な定数削減が必要である。

議会活動をチェック！

高校生の思いを「まちづくり」へ！

６月定例会中の６月２０日に議会活性化調査特別委員会を開催し、初の試みとなる市内高校生と議員の意見交換会（１０月開催）について協議しました。高校生の要望や意見などをしっかり聞き取り、「まちづくり」に反映していきたいと思います。

高校生の要望・意見に期待！
※写真は昨年開催した美作大学生との意見交換会



市政のあり方を問う！

一般質問

一般質問の記事は、決められた文字数の中で議員本人が要約し、掲載しています。詳細は次の方法によりご覧ください。

◆インターネット

会議録はインターネットでもご覧いただけます。「津山市議会会議録」で検索してください。６月議会の会議録は９月議会初日に公開予定です。

◆会議録（冊子）

議会事務局、市立図書館（加茂・勝北・久米を含む）、県立図書館でご覧いただけます。６月議会の会議録（冊子）は９月に発行予定です。

骨格予算編成についての考え方は

市政会
岡田康弘

予算編成

問 財政調整基金（※）をあてにした予算編成をどう思うか。

答 当初予算で財政調整基金を取り崩して予算編成を行っており、６月補正予算では繰越金等も見込めない中、必要とする一般財源は財政調整基金を取り崩すしかない状況だった。

問 市税、交付税をすべて投入してまで骨格予算を編成したその考え方は。前市長が当選する前提で予算編成したのでは。以前、財政指標の質問を行ったときに、「基金も他と比較してもある」と前財政部長が答弁している。今でもあると言えるのか。前市長のときに、財政に余裕があるような答弁をし、新市長になって金がないとはどういうことか。

答 なし。

財政に余裕はあるのか！？

【その他の質問項目】

◆子ども拠点施設のあり方について

◆作陽高校移転問題について

農林業振興

緑風会
西野修平

地方創生

問 農業、林業で津山創生実現を目指されているが、農林部発足の思いは。

答 農林業従事者を一層支援し成長産業とするため、農地集積による生産基盤の維持向上、地域に適した安全で安心な農畜産物の生産拡大、農林業生産物のブランド化や販路拡大、六次産業化や農商工連携による高付加価値化と商品開発、地域内外の消費拡大など農林業を「強くて儲かる産業」にする。

問 津山産小麦を使って「津山うどん」なるブランドをつくり、名物にしては。

答 津山産小麦の割合を含めた定義付けなどについて、うどんを取り扱う関係者にご協力をお願いし、ブランド化の可能性を研究したい。

津山産小麦で名物を

※財政調整基金…自治体が財源に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金。